

大学と損害保険 ②③

～大学教職員の基礎知識としての《保険のはなし》～

有限会社国大協サービス 事業部次長 藤井昌雄

リスクマネジメントと保険

今回の連載もあと2回となりました。今まで、保険の基礎知識として重要と思われるテーマを毎回取り上げてご説明して来ましたが、最後にまとめとしてリスクマネジメントと保険について考えてみたいと思います。

リスクとは？

皆さんがなぜ保険に加入するのか？ それは、何らかのリスクが想定され、それに対応する金銭的な手段として保険が有効だと考えているからだと思います。つまり、リスクへの対応、リスクマネジメントの手段として保険を利用しているわけです。

最近では頻繁に使われる「リスクマネジメント」という用語ですが、その何たるかはあまり明確ではありません。論者の数だけリスクマネジメント論があるとされるほど、アプローチの違いにより内容の濃淡が異なります。

そうした状況を改善すべく、ISO（国際標準化機構）において規格化が進められ、「リスクマネジメント—用語集—規格において使用するための指針」(Guide 73)がまとめられました。そこではリスクを「事象の発生確率と結果の組合せ」と定義しています。そして、現在、その改定作業が進められていますが、「不確実性が組織の目的・目標に与える影響」、「不確実性：将来の出来事、その結果、その起こりやすさに関する情報が欠けている（一部でも）状態」、という案が検討されているようです。

(注) 改定案については、平成19年12月7日開催の社団法人国立大学協会主催「平成19年度大学マネジメントセミナー【リスクマネジメント編】」における、立命館大学専門職大学院客員教授・㈱インターリスク総研主席研究員 小林誠氏の資料から引用。

このような定義をお聞きになって、皆さんいかがでしょうか。後頭部に違和感を覚えるのは私だけではないでしょう。Guide 73が出された時にも、保険関係者を中心にリスクという言葉の持つマイナスイメージが無いことへの戸惑いがあったようです。

今回のご説明は、伝統的イメージ？「リスクとは想定される損害」、そして「リスクマネジメントとは「リスクへの上手な対応」という一般的な理解により、災害・事件・事故への対応を中心に進めさせていただきます。

リスクマネジメントにおける保険の位置づけ

災害・事件・事故に対する対応の取り組みをごく簡単に整理すると、大きく3つの事柄が考えられます。

①リスクコントロール

マニュアル整備や研修、訓練による予防、軽減、リース等の手法による移転、そもそも行わないという回避です。

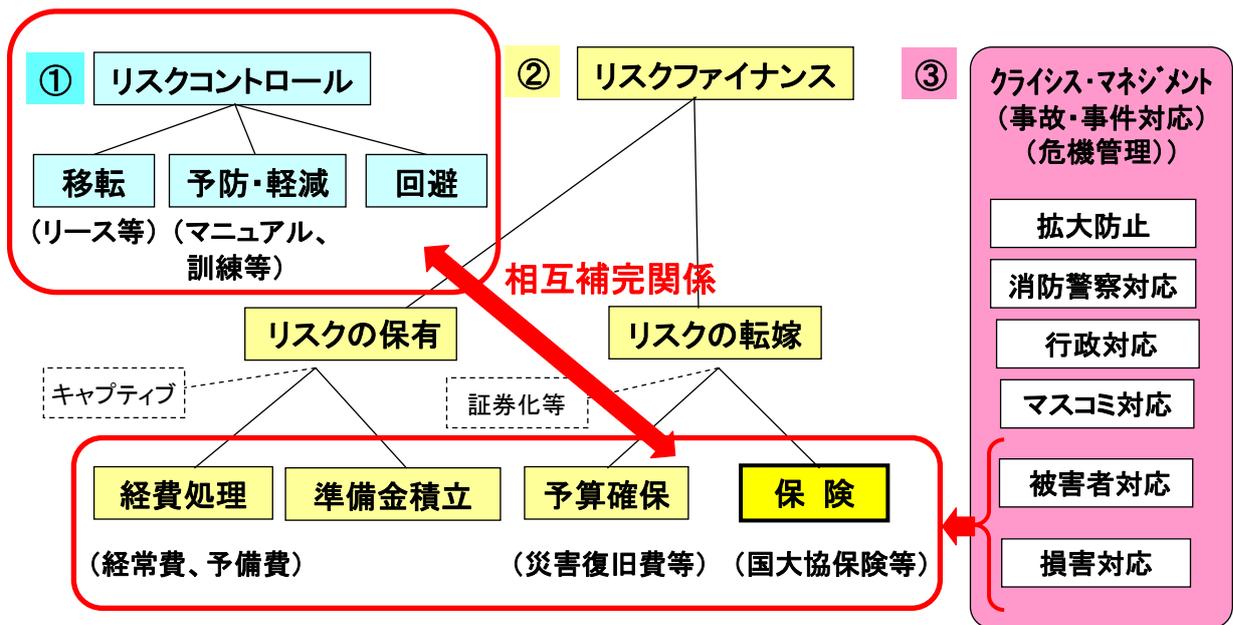
②リスクファイナンス

損害の具現化に対し、どのように金銭的に対応するかです。その一番一般的な対処方法が経費処理と保険です。つまり、自分の財布からお金を出すのか、保険で対応するかです。

③リスク発現への対応（危機管理）

実際に災害・事件・事故が発生した時の対応の仕方です。

災害・事件・事故の被害、被害者と対応する段になって、どのようにリスクファイナンスを行っていたか、保険の手配が問題となります。



リスクコントロールとリスクファイナンスは、相互に補完する関係です。どんなに予防措置を講じても事故は「0」にはなりません。リスクファイナンスの検討が不可欠です。逆に、リスクファイナンスだけの対応だとすると、損害の発生を抑えることはできず、支出が拡大することになります。「リスクマネジメントと保険は車の両輪」とよく言われますが、この場合のリスクマネジメントは予防・軽減の取り組みという意味に力点が置かれています。

保険利用のメリットとデメリット

保険は、リスクファイナンスの中心的な手段ですが、どのようなメリット、デメリットがあるのでしょうか。

まず、最大のメリットとしてあげられるのは、負担不能な多額の支出（財務受忍限度額）に対応することができる点です。例えば、自動車事故で何億円という対人賠償の責任を負った場合、一般の個人ではとても支払うことができませんが、保険に加入していれば保険金により対応することができます。また、そこまでの金額に至らず何とか負担できる場合でも、一時にまとまったお金を支出することは大きな負担となりますが、保険に加入することにより保険料として分散することができます。その他、実際の事件・事故への実務対応においては、保険に加入していることにより保険会社の様々なアドバイスを受けることができるメリットがあります。自動車事故を除いては、保険会社が示談代行を行うことはできないので、賠償事案では被害者との対応は大学が行うこととなりますが、保険会社はその際、様々な助言や援助をしてくれます。

一方、最大のデメリットは保険料の負担です。保険料には保険会社が会社としてやっていくための経費が含まれているので、自前で対応する場合と比べれば必ず割高となります。また、「保険に入っているから事故を起こしても何とかなる」という予防意識の低下を招くとしたら本末転倒です。最近ではクレーマーがドラマになる時代ですが、賠償関連事案では、大学が保険に加入していることが被害者に伝わることによって賠償請求の増加、賠償請求額の上昇を招くことも懸念されます。

保険の手配に当たっては、保険会社からの提案で全てOKではなく、このような保険のメリット、デメリットを理解し、どのような種目にどの程度の保険を掛けるのか検討し、併せて十分な予防措置を講じ、不幸にして事件・事故が発生してしまった際の対応についても整えておき、できれば発生を想定しての訓練を実施しておく必要があります。